

早期景気観測調査

【12-1月期 調査結果概要報告書】

平成27年3月



甲府商工会議所

◆調査要領

1. 調査の目的： 山梨県内で最も速報性の高い『街角の景況感』を把握する調査として中小企業の明日の経営活動に資する。
2. 調査実施機関： 甲府商工会議所
3. 調査実施時期： 平成27年1月19日(月)～30日(金)
4. 調査対象： 当所会員157事業所
5. 調査方法： ファクシミリによるアンケート方式
6. 有効回答数： 115件
7. 有効回答率： 73.2%
8. 特記事項： 原則、小数点以下第二位で四捨五入

◆結果概要

【12－1月期の動き】

前期(10－11月期)の落ち込みから業況DIはほぼ横ばい。先行きは従業員DIを除く全ての項目で改善の予測だが、業況DIはやや慎重な判断。

12－1月期の全業種総合の業況DIは▲30.4と、前期比+0.6ポイントで小幅ながらも改善へと転じた。しかし今期の売上・採算・仕入単価の3項目はDI値がそれぞれ悪化していることを考えると、前期の落ち込みからの景気回復感は薄く、業況はほぼ横ばい状態だ。向こう3か月の見通しは、従業員DIを除く全ての項目で改善を見込んでいる。中でも売上、仕入単価の2項目はそれぞれ約15ポイント、採算に関しても10ポイントのDI値の改善を見込んでいる。一方、業況DIに関しては改善幅3.4ポイントに留まり、売上や採算DIの数値と比較するとやや慎重な判断となっている。

業種別では、卸売業・建設業で業況が改善し、製造業・小売業・サービス業では悪化した。

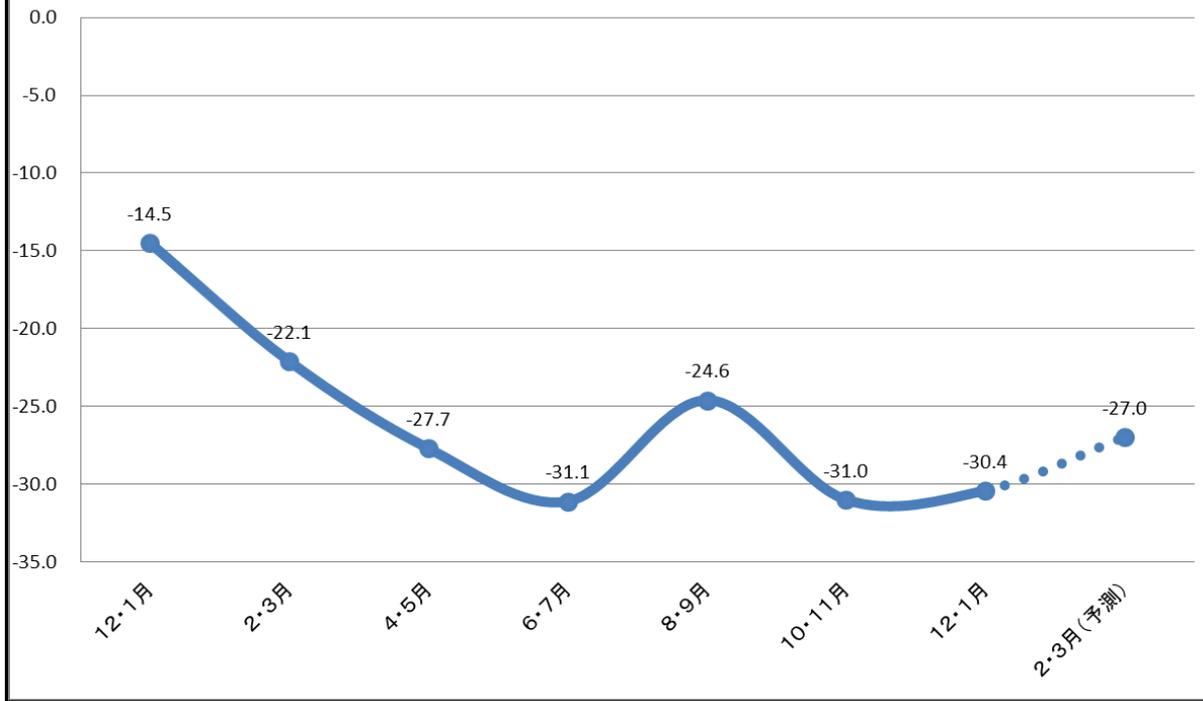
製造業では、業況DIが前期比19.8ポイントの悪化となった。売上DIは改善しているものの、採算DI・仕入単価DIが共に12ポイント以上の悪化となり、円安などによる材料費の高騰が採算を圧迫していると推察される。

建設業の業況DIは、前期比+26.8ポイントで大幅に改善となった。仕入単価DIも改善に転じているものの、資材高騰・人的コスト上昇の影響から、依然として低い水準になっている。

卸売業の業況は、前期比+31.3ポイントと大幅な改善に転じた。金融貸出しを除く全ての項目が改善となり、見通しも期待が持てるが、企業からは円安を懸念する声が多く、油断はできない状況にある。

小売業では業況DIが前期比39.6ポイント、サービス業では前期比47.5ポイントの大幅な悪化となった。どちらの業種においても昨今の節約志向からくる消費の冷え込みが、年末年始の繁忙期に大きな打撃を与えたようだ。

業況DIの推移



◆全業種・業種別詳細

※ D I 値 (景況判断指数) について

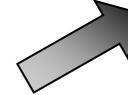
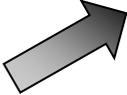
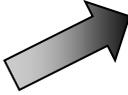
D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

◆指標の見方

前回D I に比べて (先行は今回実績値に比べて)		
改善	不変	悪化
		
D I 値	D I 値	D I 値

※仕入単価D I は、仕入単価が下落した場合、「」(改善)と表示しております。
従業員D I は、従業員が不足している場合、「」(改善)と表示しております。

◆全業種総合

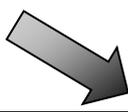
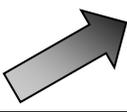
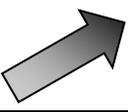
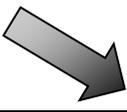
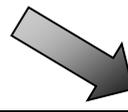
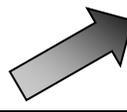
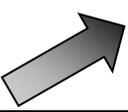
業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 30. 4	▲ 27. 0	▲ 33. 0	▲ 37. 4	▲ 51. 3	11. 3	0. 0

12-1月期の全業種総合の業況D I は、**▲30. 4** (前期比+0. 6ポイント) となり、小幅ながら改善に転じた。しかし今期の売上・採算・仕入単価の3項目はD I 値がそれぞれ悪化しており、前期の落ち込みから業況はほぼ横ばい状態といえる。売上D I ・採算D I に関しては2期連続、仕入単価D I は3期ぶりの悪化となっている。一方で従業員D I、金融貸出しD I はやや改善となっているが、全体としてどの項目も小幅な動きに留まり、景況には停滞感が見られる。

業況の先行きに関しては▲27. 0ポイントと、改善を見込んでいる。

◆ 業種別

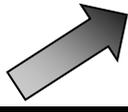
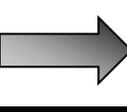
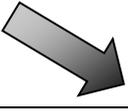
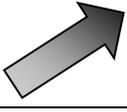
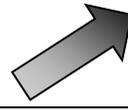
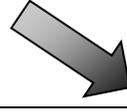
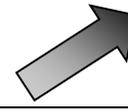
製造業

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲26.7	▲20.0	▲3.3	▲26.7	▲46.7	▲3.3	3.3

業況D Iは、前期比19.8ポイントの悪化となった。売上D Iは悪化に転じた前期から持ち直してはいるが、採算D I・仕入単価D Iはともに12ポイント以上の悪化となり、円安等からくる原料費の高騰が採算に大きく響いている状況が推察される。従業員D I・金融貸出しD Iについてはいずれも改善に転じた。

業況D Iに関する今後の見通しについては、改善に向かうと予測している。

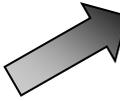
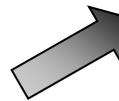
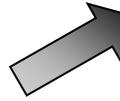
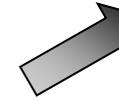
建設業

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲17.6	▲17.6	▲29.4	▲41.2	▲70.6	23.5	5.9

業況D Iは、前期比+26.8ポイントで改善に転じた。売上D Iは、悪化に転じているが、採算D I、仕入単価D Iは改善に転じた。仕入単価D Iは改善に転じているものの依然として低調。また、従業員D Iは悪化に転じ、金融貸出しD Iは2期連続の改善となった。

来期の業況D Iについては、横ばいの予測となっている。

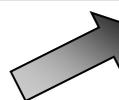
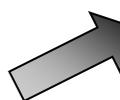
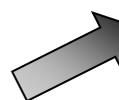
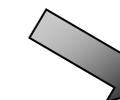
◆ 卸売業

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 21. 1	▲ 15. 8	▲ 47. 1	▲ 21. 1	▲ 21. 1	21. 1	0. 9

業況D Iは、前期比+31. 3ポイントの大幅な改善に転じた。売上D I、採算D I、仕入単価D Iのいずれも前期より改善となり、とりわけ仕入れ単価D Iは31. 3ポイントの改善となった。従業員D Iは2期連続の改善となった一方、金融貸出しD Iが3期ぶりの悪化となった。D I値は金融貸出しD I以外が改善となり、一見すると明るさが覗くが、企業からは円安を懸念する声が多く、油断はできない状況となっている。

業況D Iに関する今後の見通しについては、改善を予測している。

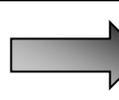
◆ 小売業

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 44. 8	▲ 41. 4	▲ 41. 4	▲ 51. 7	▲ 58. 6	10. 3	▲ 3. 4

業況D Iは前期比39. 6ポイントの大幅な落ち込みとなった。しかし、売上D I・採算D Iは改善に転じ、とりわけ、売上D Iは27. 6ポイントの大幅なマイナスとなっている。また、仕入れ単価D Iは10. 3ポイントの悪化となり、2期連続で悪化となった。金融貸出しD Iは小幅ながらも悪化に転じ、従業員D Iは横ばいとなっている。

業況D Iに関する今後の見通しについては、小幅な改善を予測している。

サービス業

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 35. 0	▲ 35. 0	▲ 55. 0	▲ 45. 0	▲ 60. 0	15. 0	0. 0

業況D Iは、47.5ポイントの大幅な悪化に転じた。売上D I・採算D I・仕入単価D Iについてもいずれも大幅なマイナスとなっている。とりわけ売上D Iは前期比67.5ポイントの深刻な落ち込みとなっており、昨今の消費者の節約志向の強い影響が推察される。従業員D I、金融貸出しD Iはそれぞれ改善に転じている。

業況D Iの見通しについては横ばいと、慎重な予測となっている。

◆ 業種別詳細

◆ 製造業（食品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

◆ 製造業（家具）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

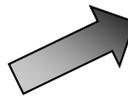
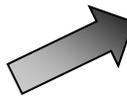
◆ 製造業（工業製品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

◆ 製造業（宝飾）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

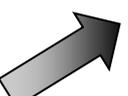
◆ 製造業（繊維）

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

◆ 建設業 (建築)

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

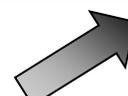
◆ 建設業 (土木)

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

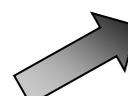
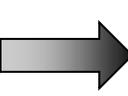
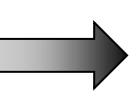
◆ 建設業 (鉄鋼)

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

◆ 卸売業 (食品)

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

◆ 卸売業 (繊維)

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

◆ 卸売業（その他）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

◆ 小売業（大型店）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

◆ 小売業（食料品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

◆ 小売業（事務用品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

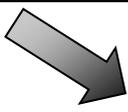
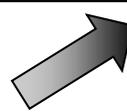
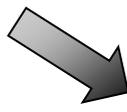
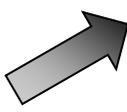
◆ 小売業（趣味・日用品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

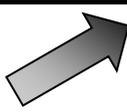
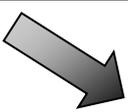
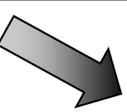
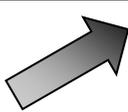
◆ 小売業（家電）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

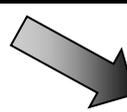
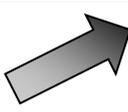
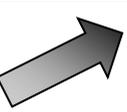
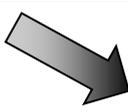
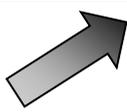
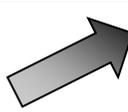
◆ サービス（ホテル・旅館）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

◆ サービス業（観光）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

◆ サービス業（飲食その他）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

➤ 中小企業の声（現状や直面してる課題）

【製造業】

➤ 製造業（食品）

- 12月の繁忙期を終えたが、1月2月はまだ日本酒需要がある。しかし、厳しい状況は変わらず、6月決算の自社としては折り返し地点となる。明るい兆しがみえている特定銘柄酒にも力を入れ良い酒造りをしていきたい。
- 12月中旬、選挙の為ギフトがやや不調であったが、20日過ぎから盛り返し、前年比100%（12月～1月中旬）となった。引き続き円安の為、手堅い生産が続く。輸出については、12月に入った特注を継続していく方向となり、今後アイテムを増やしていく。
- 円安による輸入原材料の上昇が業界に与える影響は小さくない。

➤ 製造業（工業製品）

- 世界の2大スマホメーカーがスマホ市場を席巻していたが、欧米や日本においてハイエンドモデルの売れ行きが伸び悩んでいる。更に中国の新興メーカーによる中低価格品が急激にシェアを拡

大しつとあり、水晶振動子や発振器などの水晶デバイスを供給するわれわれ業界各社は厳しい価格競争を余儀なくされている。

- ・県内仕事というより県外を中心に仕事が増えている。県内のみの仕事をやっているところは仕事が減っているのではないか。

➤ 製造業（家具）

- ・アベノミクスの今までは中小企業に全く不利。今後はわからないがあまり期待していない。

【卸 売 業】

➤ 卸売業（食品）

- ・原料高から製品値も値上げにあり、客も節約傾向が強く高額商品の動きが悪くなっている。
- ・円安の影響で輸入商品が強含み。
- ・輸入商品の大幅な値上げで価格を転嫁できない。山梨県産のものが好評だ。
- ・仕入れ単価の上昇がどこまで連動していくか、見えない状況。

➤ 卸売業（その他）

- ・円安による輸入価格の上昇。

【建 設 業】

➤ 建設業（建築）

- ・資材高騰、建設現場人件費（職人単価）上昇による収益圧迫が顕著。専門職がいない。

➤ 建設業（土木）

- ・仕事（発注）が増えて調達単価が整ってきたとしても社員の無理がバブル期ほど効かないし、労働コンプライアンスもひどくがんじがらめなので忸怩たる思い。
- ・公共、民間ともに工事が減少し人手不足に技術者の年配者が多くて、危険な工事施行が不可能。資材のコストが上昇する。
労働基準法が厳しくなり、労働時間短縮。特に日中の光の少ない時期は作業が進展しない。

➤ 建設業（鉄鋼）

- ・2月～4月くらいまでは今のペースの仕事量と思われる。
- ・受注状況は順調であるが、土木工事の遅れによる繰り越し工事が発生し、売上金額に伸びがない。輸入原材料価格も不変。原油安による船価は安くなってきている。

【小 売 業】

➤ 小売業（趣味・日用品）

- 平常の売上はもちろん良くないものだが、冬物のバーゲンになっても来客は例年になく少ない。不要不急品は買わないということか。
- たいへん厳しい状況。甲府銀座ビル解体にかかわるデメリットも気になるところ。
- 天候さえ大きく崩れなければ業績は好調に推移するだろう。

【サ ー ビ ス 業】

➤ サービス業（ホテル）

- 観光バス（長距離）の減少が大きい。
- 中小企業の人材確保と為替の影響による仕入れ価格の上昇構造を見直すべき時期と感じる。
- 売上は昨年比ほんの僅か増えたが、採算を左右する額ではない。小規模旅館は皆同様だと思う。又、仕入れ価格（食材）、クリーニング代等ほとんど総て値上がりしているので、なかなか良い向きにならないと感じている。

➤ サービス業（観光）

- 燃料価格が下落しており、特に運輸関連事業の軽油コストの抑制が期待できる状況。

➤ サービス業（飲食その他）

- 12月に関して云えば、例年（ここ数年）とは全くちがった。忘年会の減少が業界の話題だった。多少は選挙の影響もマイナスに働いたようだが12/16くらいから盛り返した印象。
- うなぎの価格が余りにも上昇し、特別な時にしか食べない、というような状況になってしまった。
- 売上高採算共、前年比僅かながら減少した。一宴会あたりの客数が減少の要因と思われる。